

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

11644

教育功労者表彰事業

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	5	家庭や地域における教育力の向上
施策	1	家庭や地域における教育力の向上
取組方針	2	地域における教育力の充実

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計		一般会計	
	款		教育費	
	項		教育総務費	
	目		事務局費	
	大事業		事務局事業	
	中事業		教育功労者表彰事業	

事業種別	継続	関連個別計画	和歌山市教育振興基本計画		
事業年度	昭和41年度 ~ 無し	担当課・担当課長・Tel	教育政策課	深瀬 琢	435-1135
事業実施の根拠法令		関連課			

1 事業内容

	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)	全体事業概要				
事業目的	学校教育、社会教育及び教育行政の振興に多年にわたり尽力した者を、その功績をたたえて表彰する。	和歌山市教育功労者表彰規程に基づき、教育委員会が選考し、教育功労者を表彰する。				
事業内容		令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
		教育功労者の表彰(14人)。担当各課より候補者の推薦を募り、8月に選考委員会を開催する。そこで決定された候補者を9月定例教育委員会に付議し承認を受ける。表彰は、11月21日(日)に行った。	教育功労者の表彰(15人)。担当各課より候補者の推薦を募り、8月に選考委員会を開催する。そこで決定された候補者を9月定例教育委員会に付議し承認を受ける。表彰は、11月5日(土)に行った。	教育功労者の表彰(15人)。担当各課より候補者の推薦を募り、8月に選考委員会を開催する。そこで決定された候補者を9月定例教育委員会に付議し承認を受ける。表彰は、11月12日(日)に行った。	和歌山市教育功労者表彰規程に基づき、教育委員会が選考し、教育功労者を表彰する。	和歌山市教育功労者表彰規程に基づき、教育委員会が選考し、教育功労者を表彰する。

2 事業コスト

事業費等(千円)	令和03年度		令和04年度		令和05年度		令和06年度		令和07年度		
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	
事業費	99	74	102	81	101	81	115	0	115	0	
伸び率(%)	0%	△5.1%	3%	9.5%	△1%	0%	13.9%	△100%	0%	0%	
人件費	正規職員	1,397	1,397	1,402	1,402	1,415	1,336	1,336	0	1,336	0
	正規職員以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	1,397	1,397	1,402	1,402	1,415	1,336	1,336	0	1,336	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
一般財源(税等)	99	74	102	81	101	81	115	0	115	0	
所要人数(人)	正規職員	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.17	0.17	0.00	0.17	0.00
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
主な予算内訳	賞賜金 88千円										

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
活動指標	選考委員会の開催回数	回	目標値	1	1	1	1	1
			実績値	1	1	1		
			達成度(%)	100%	100%	100%	%	%
成果指標	表彰者数	人	目標値	20	20	20	20	20
			実績値	14	15	15		
			達成度(%)	70%	75%	75%	%	%
			目標値					
			実績値					
			達成度(%)					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	学校教育、社会教育等に功績がある者を表彰することには、合理性があり、かかる費用についても妥当な範囲内であると考えられるため、現状維持で事業を進める。
見直し・改善内容	表彰式の司会をアナウンス協力職員に依頼し、スムーズな進行に役立てた。